

小中英語研究部会 中学校第1学年 指導案

授業日：令和3年11月8日

公開校：高山市立宮中学校

授業者：樹下 貴普

ALT：Hemi Witehira

1 単元名

NEW HORIZON 1

Unit 9 『Think Globally and Act Locally』

2 単元について

(1) 題材について

本単元は、海斗とメグが国際交流イベントに参加して世界的な問題の1つである「水」に関するプレゼンテーションを聞き、ケニヤが抱える問題について考える教材である。世界的な大きな問題について、教材を通して捉えつつも、自分たちの身近な題材（地元）についても立ち返って考えることができる内容である。そこで、地元「一之宮町」の現状や課題について考え、「世界に誇れる一之宮町にするためには？-外国人観光客に来てもらうために、一之宮町の魅力を発信しよう！-」を単元を貫く課題として設定し、身近な題材に立ち返り、問題に当事者として主体的に考えていく学習活動を展開していく。

(2) 単元で育む資質・能力について

本単元で身に付けさせたい資質・能力は特に「外国語で、情報や考えなどを表現し伝える力」である。一之宮町には名所や名物があるにも関わらず、外国人観光客がほとんど来ていないという現状がある。本単元では、その現状を改善していくために、一之宮町の魅力を伝え、外国人観光客を増やすきっかけにしていこうという活動を仕組んでいる。一之宮町の情報や良さをどのように表現し伝えたらよいかを考え、実際に外国人に伝えることで、「外国語で、情報や考えなどを表現し伝える力」を育むことができると考える。

3 生徒の実態

英語学習に対して興味関心があり、気づいたことや感じたことを素直につぶやいたり発表したりすることができる生徒が多い。また、対話活動では自分の思いや考えを相手に積極的に伝えようとする姿が見られる。一方で、活動の場面や状況に応じて、即興的かつ正確に内容を伝える点では弱さが見られる。中間交流を通して、伝える内容を精選したり、文法面の誤りを修正したりすることで、内容の深まりや表現の広がりが見られるようにしていきたい。

4 研究主題に関わって

〈研究主題〉

「できた・わかった」を実感しながら、コミュニケーションに挑み続ける児童・生徒を育てる指導を求めて
～活動を通して習得し（思考しながら表現し）、仲間と共に高まる子どもの育成～

〈キーワード〉 Learn by doing

(1) 主体性を生み出す準備と指導

① つけたい力の明確化

第1時のオリエンテーションでは、一之宮町に観光客が来ない現状を知らせるとともに、一之宮町の町づくり

協議会の方の思いを聞く時間とする。それによって一之宮町の魅力を伝えていく必要があることを感じさせるとともに、魅力を外国人観光客に伝えるためには「外国語で、情報や考えなどを表現し伝える力」を身に付けていかなければいけないことを実感させたい。またこの実感が、生徒が主体的に活動に取り組む原動力にもなると考える。

②魅力ある課題や活動

自分たちの地元である一之宮町について題材として取り上げ、町の現状を知りながら町の発展を考えていく活動は、生徒たちの「伝えたい。」「発信したい。」という意欲につながると考える。また、単元末のパフォーマンステストを録画し、良い発表を実際に外国人観光客に見てもらったり、No.1プレゼンターの発表を地元FMラジオで流してもらう旨を伝えたりすることで、さらに生徒の意欲を掻き立て、活動に主体的に取り組む姿を生み出したい。

(2) 思考しながら表現するための指導過程

①学び合いのある協働活動

本時では“Sharing Time”を位置付けている。グループごとに1つのトピックについて発表を作成し、“Activity 1”でそれぞれがスピーチ担当、内容担当、発音・文法担当である別々のALTのところへ発表をしに行く。そこで“Sharing Time”では、ALTからもらった新たな情報や各観点のアドバイスをもとに自分のグループのメンバーと共有し、発表内容を再構築する展開となっている。この展開によって、より良い発表内容を仲間との協働によって作り上げることができるようになる。同時に、それぞれがALTからもらったアドバイスを出し合い、それを踏まえて表現内容を再構築していく過程は、生徒が「思考しながら表現する」場面を生み出すことができる本時の見せ場であると考えられる。

②発信する力をつける単元指導計画

単元を通して生徒が、目的・場面・状況を理解した上で、生徒自身の知識や経験を踏まえ、情報を取捨選択し発信する力を育てていく必要がある。そこで本単元では、単位時間の中で“Thinking Time”→“Activity 2”という流れを位置付けている。“Thinking Time”は「自分の考えを整理し、構築する時間」とし、“Activity 2”で「考えたことを表現（発信）する時間」としている。「考えたことを表現（発信）する」ことをくり返すことで、「発信する力」を身に付けられるとともに、単元で育みたい資質・能力である「外国語で、情報や考えなどを表現し伝え合う力」の育成にも繋がっていくと考えている。

(3) 次の学びに向かう力の育成

本時の活動では、評価規準の3観点、スピーチ面（アイコンタクト・声の大きさ・ジェスチャー・間・スピード等）、内容面（魅力的な新情報）、文法面（発音・イントネーション・文法的な正確さ等）について、各観点を担当するALTから生徒一人一人に対して、良さや改善点を伝える。それを2回行うことで自らの課題や伸び、伝わった喜びを味わえるようにし、生徒一人一人に達成感をもたせたい。

さらに、終末に生徒の成長を価値づける“Good Job Time”を設けることで、生徒一人一人が、できるようになったことへの自信や知識・技能をもって次の学びに向かっていけるようにしたい。